

これは会議主催者による公式議事録ではありません。引用はお控えください。
This is not an official record by the meeting organizers. Do not quote.

タイトル	非附属書 国の国別報告書作成支援についての意見交換 Exchange of views on the support to non-Annex I (NAI) Parties to prepare national communications
主催	UNFCCC 事務局
日時	2005 年 11 月 29 日 (火) 13:00 ~ 15:00
主要討論者	ガボン Greenhouse gas project manager: Claudine Moussounda 氏 セントメ・プリンシベ National Focal Point: Aderito Santana 氏 CGE (Consultative Group of Experts on Non-Annex I National Communications) : 平石尹彦氏 UNFCCC 事務局: Dominique Revet 氏 GEF/UNDP National Communications Support Programme: Martha Perdomo 氏 US-EPA: Susan Wickwire 氏 イギリス Foreign commonwealth office, Climate change and energy group: Matthew Holder 氏
傍聴者	約 70 名
目的	非付属書 国の国別報告書 (National Communication : NATCOM) 作成のための資金および技術的援助プログラムの紹介
発表の概要	<p>ガボンの現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ガボンでは気温や海水面および降雨量が増加傾向にあり、気候変動の影響を受けている。 ・ 再生可能エネルギー (水力が主、野菜バイオマスなど)、政府ビルのエネルギー効率化、CDM の導入に取り組んでいる。 ・ 適応策も重要課題。 <p>サントメ・プリンシベの現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1st NATCOM を提出。 ・ サントメ・プリンシベは小さな島国であり、気候変の影響の特定と適応策に取り組んでいる。 ・ 適応策の一環として、焼畑対策や再植林などの森林管理に重点をおいている。 ・ データ不足、専門家の不足、地域のコーディネーター不足、言語の問題がある。 <p>CGE 平石氏 (傍聴席から要請を受けてスピーチ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ CGE は非付属書 I 国の NATCOM 作成の支援ためにワークショップを開催したり、NATCOM の評価等の支援をしている。これまでラテンアメリカとアジアでインベントリに関するワークショップを開催。適応策もカバーしている。 ・ 将来、NATCOM は適応策についての考察も必要になる。プロジェクトの提案を行うことも期待したい。NATCOM は、非付属書 国が将来のことを考えるよい機会を与えている。気候変動というひとつの問題に対処するだけでなく、国の開発計画の策定作業の一部としてぜひ活かしてほしい。

これは会議主催者による公式議事録ではありません。引用はお控えください。
This is not an official record by the meeting organizers. Do not quote.

	<p>UNFCCC 事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 温室効果ガスインベントリソフトウェアの紹介。ウェブサイトで購入可。 http://unfccc.int/national_reports/non-annex_i_natcom/training_material/methodological_documents/items/349.php エクセルで簡単入力。LULUCF 対応。 <p>National Communication Support Program (NCSP) の紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2nd NATCOM 作成への支援策の紹介。 ・ NSCP は情報支援（ニュースレターの発行）、キャパシティビルディング、気候問題を政策に組み込む際のアドバイスなどを行っている。 ・ キャパシティビルディングでは、UNDP や USAID、世界銀行と協同で東欧・アフリカ、中央アメリカ、中央アメリカ・メキシコ・キューバ（適応策）、カリブ諸国（適応策）の地域プログラムを行った。 ・ これまでに 32 のプロジェクト提案が承認され、122 の非付属書 国が NATCOM 製作途中である。 <p>アメリカの非付属書 国への NATCOM 作成支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これまで GEF への資金援助、UNFCCC へ非付属書 国のトレーニングに \$ 600,000 援助、中央アメリカに GHG インベントリ改善支援等を行った。 ・ プロジェクトの目的とその成果物についての共通理解を得ることが困難であること、明確な作業計画が必要であること、高い関心を得る必要があること、言葉の問題などが課題である。 ・ データの入手とその管理、エキスパート育成、パソコン整備、NATCOM のより広い政策プロセスへの組み込みなどのニーズがある。 ・ 技術的支援は非付属書 国同士の情報交換がよりよい結果が出る。 ・ 環境、エネルギー、農業など各部門の政府の支援が必要。 <p>イギリスの非付属書 国への NatCom 作成支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ データ集積、脆弱性評価や情報活用についてのワークショップ、トレーニングを開催。 ・ DEFRA、DFID 等他省庁と連携している。 ・ 最近は環境や持続可能な開発を反映した NATCOM が見られるようになってきた。 ・ 2nd NATCOM では知識のキャパビルに焦点を当てている。NATCOM をキャパビルのニーズを知る情報源として使用している。
質疑応答	<p>Q:(アメリカ)自分たちは適正な支援をしているのか気になる。</p> <p>A:(ガボン)ガボンは石油産出国であるが水資源や森林もある。他の支援も役立つ。国際的な支援は NCSP を含め色々あるが、NATCOM の作成の一部としての政策の選択（特に適応策）の際に必要な Cost-benefit analysis についても資金援助があると良いと思う。</p>

これは会議主催者による公式議事録ではありません。引用はお控えください。
This is not an official record by the meeting organizers. Do not quote.

	<p>Q:(モロッコ)インベントリ作成には2006年のIPCCガイドラインを使う必要があるのか?</p> <p>A:(CGE)インベントリには1996年のIPCC Good Practice Guidanceを使うことになっており、2006年のガイドラインを使う必要は当面はない。COPでの決定しだいであるが、決定は相当後のことになるのではないか。補足すると、もし自国の排出係数などのデータがあればIPCCに連絡してほしい。IPCCの排出係数データベース及びそれを通じて他の国のインベントリ作成作業に大いに役立つだろう。</p> <p>Q:(多数の非付属書 国から)言葉の問題は非常に大きい。ワークショップを開いても聞き取れず苦勞する。</p> <p>A:(UNDP)東欧でのワークショップでは開催時に英語とロシア語で通訳し、事後の会議資料も英語とロシア語に翻訳した例がある。要請に応じてその他の国の言葉にも翻訳できる。</p>
資料	なし

文責：川村 美穂子（社団法人海外環境協力センター 嘱託研究員）